

## 第13回松戸市みんなが元気になる公共交通の検討会議 議事要旨

日 時：2022年7月21日（木）13:30～14:50

会 場：松戸市衛生会館 3階 大会議室

出席者：

内山 久雄委員（東京理科大学名誉教授）〔本検討会議 会長〕  
浅川 靖之委員（東日本旅客鉄道株式会社 東京支社）  
大川 敦委員（東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社  
※代理出席：渡部 裕二 氏）  
足原 潤一委員（新京成電鉄株式会社）  
柴崎 俊哉委員（北総鉄道株式会社）  
篠崎 真一委員（東武鉄道株式会社）  
中嶋 貞治委員（松戸新京成バス株式会社）  
三浦 裕樹委員（京成バス株式会社）  
武藤 一彦委員（東武バスセントラル株式会社）  
檜山 雅紀委員（ちばレインボーバス株式会社）  
中村 郁委員（新京成バス労働組合）  
栗飯原 覚委員（京成バス労働組合 ※代理出席：鈴木 慎也 氏）  
高橋 直人委員（国土交通省関東運輸局 千葉運輸支局）  
木下 博道委員（千葉県東葛飾土木事務所）  
田瀬 信一委員（松戸市商店会連合会）  
恩田 忠治委員（松戸市町会・自治会連合会）  
町山 貴子委員（社会福祉法人松戸市社会福祉協議会）  
文入加代子委員（松戸市消費者の会）  
福田 勝彦委員（松戸市 街づくり部 街づくり部長）  
湯浅 勝委員（松戸市 街づくり部 都市計画課長）  
小宮 光生委員（松戸市 建設部 建設総務課長）  
秋庭 良一委員（松戸市 経済振興部 商工振興課長  
※代理出席：高橋弥生 氏）  
土屋由美子委員（松戸市 市民部 市民自治課長）  
飯野 幸子委員（松戸市 健康福祉部 健康福祉政策課長）  
長島 朋子委員（松戸市 福祉長寿部 高齢者支援課長）

欠席者：北原 幸治委員（流鉄株式会社）  
野村 徳康委員（松戸地区タクシー運営委員会理）  
菊池 和彦委員（全国自動車交通労働組合）  
成田 斉委員（一般社団法人千葉県バス協会）  
谷村 豊委員（国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所）

高見 竜一委員 (松戸警察署)  
渡邊 啓吾委員 (松戸東警察署)  
村上 直委員 (松戸市はつらつクラブ連合会)  
小倉 慎一委員 (松戸市 街づくり部 街づくり課長)  
清水 二郎委員 (松戸市 健康福祉部 地域福祉課長)

事務局：松戸市 交通政策課 (6名)

## 1. 開会

### 2. 会長及び副会長の選出

※委員から会長に内山委員、副会長に福田委員の推薦があり、承認された。

事務局：それでは会長に選出されました内山会長より、ご挨拶をお願いしたい。

会長：委員をお引き受けいただいた皆様には利用者にとって使いやすい公共交通体系となるよう、また、活力のある地域社会の実現に向けてお力添えをいただきたい。現在運行している松戸市コミュニティバス「中和倉コース」では、当初、地域のやる気は満々であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことで、現在はそれほど好調とは言えない状況である。しかしながら、なんとか運行を維持できているのは、皆様方のご尽力によるものと考えている。今後も不測の事態はあるかと思うが、困難を乗り越えて、より活力ある公共交通を実現していきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

## 3. 議題

※事務局より傍聴希望者について連絡があり、2名が入室した。

### (1) 令和3年度事業報告について

会長：事務局より、令和2年度よりも人数ベースで増加したとの報告があった。事業者の皆様には、実際の利用者の反応など、数字に現れないことがあればご報告いただきたい。

委員：ダイヤによっては、利用者の一定数が、路線バスからコミュニティバスに移行している様子が伺える。

会長：コミュニティバスの導入によって、バス全体の需要が増えた訳ではなく、利用者の取り合いが発生しているということか。

委員：当社(松戸新京成バス)の既存路線の松高線と重複しており、北松戸駅・県立松戸高校・総合医療センターの3つのバス停は影響を受けている。会長のおっしゃ

る通り、利用者の取り合いとなっており、松高線の収入に影響を与えている。また、別の要素として、総合医療センターでは、新型コロナウイルス感染症の影響で面会を制限されていることもあって、お見舞い目的の利用者が減少していると見ている。

委員：利用している市民には、コミュニティバスで支払った運賃は新京成バスの収入になると考えられている。一方、事業者としては自主経営路線が非常に打撃を受けていると感じており、お客様が既存路線からコミュニティバスに流れることを非常にセンシティブに捉えていることを皆様にはご理解いただきたい。これまで事業者は、赤字路線を黒字路線で支えるビジネスモデルで自主努力を続けてきたが、近年は交通を取り巻くフェーズが変わってきており、内部補填を続けることは困難である。コミュニティバスの取組みを否定する訳ではないが、このように複数の委員から現状について報告が挙がっている状況であるため、本会議においても何らかの対応を考えていくべきではなかろうか。

会長：コミュニティバスの基本的な考え方は「民間路線バスと競合しないこと」であったが、実際に運行してみたら競合しており、黒字路線が赤字になっている状況が報告された。今後の課題は、競合関係を回避できるよう、コミュニティバスの役割や民間路線バスとの役割分担・差別化を検討することではなかろうか。例えば、路線バスは速達性を求め（全ての停留所には停車しない）、コミュニティバスは速達性を求めない（全ての停留所に停車する）、といったサービスの質を差別化する対応策が考えられるのではなかろうか。

「馬橋駅入口」停留所はJR馬橋駅と接続している割に、利用者が少ない状況である。実際には駅から距離があり、「入口」という名前に裏切られたと感じた人が乗らなくなっているのではと懸念している。もしそうであれば停留所名称の変更を検討すべきではないか。

委員：実際には「馬橋東口商店街」停留所の方が駅に近く、利用者が多い。名称変更については、ご意見として承る。

## (2) 令和4年度事業予定について

- 委員：八ヶ崎地区と高塚新田地区で予定されている需要調査とは、具体的にどのような調査を想定しているのか。
- 事務局：地域組織が作成している運行内容（運行ルート、ダイヤ等）について、地域住民にアンケートを実施することにより、収支率40%が見込めるかを調査する。収支率40%が見込めなかった場合は、運行内容を再検討する。年度内に調査が実施できるかは、運行ルートの作成状況による。
- 委員：京成バスの運行路線と近いエリアのため、適宜情報共有をお願いしたい。  
松戸市は既に鉄道や路線バスなど市民の足がたくさんある状況であるにも関わらず、コミュニティバスが運行されている。また、路線バスが自主運行で維持できない状況となっているにも関わらず、コミュニティバスの運行には補助が入っている。この状況が続くと、公共交通空白・不便地域の利便性が上がり、通常エリアの利便性が下がるといった逆転現象が起こることが懸念される。本会議では、会の名の通り、あまねく市民を対象に、総合的に俯瞰して公共交通を元気にするための議論をさせていただきたい。
- 事務局：これまでも、公共交通空白・不便地域以外の方からご相談を受けている。適宜情報共有していきたい。
- 委員：資料2のp.2の図面上で運行しているバス路線の多くは赤字路線であり、このままでは路線バスが松戸市から消えてしまうことが危惧される。我々はお客様の足という誇りをもって日々安全に運行することを心がけている。この会を、公共交通の維持について全体的に考えられる会議にしたい。
- 事務局：市民を取り巻く交通環境が変化しており、現状のままでは路線バスの存続が厳しいというお話だと受け取った。既存の公共交通について皆様と一丸となって検討する会をつくって参りたいので、ぜひご協力をよろしくをお願いしたい。
- 会長：事務局も前向きに考えるということなので、皆様には私からもぜひご協力をお願いしたい。
- 委員：（公共交通空白・不便地域の）移動実態調査について、どこに何を目的に移動したいのかが把握できる調査にしてもらいたい。市民にとっては気軽に要望を挙げやすくなっている一方、事業者にとっては既存の路線・ダイヤでさえも運転手の確保が非常に厳しくなっている。新しい交通手段は本当に必要な地域にのみ導入すべきであることを市民にご理解いただけるよう、市は市民とよく話しあってもらいたい。
- 会長：地域住民は、基本的に無いものねだりをするものである。バスを要望していても、実際に導入してみたら乗らない人が多い。せめて要望した人だけでも乗るべき。  
松戸市は「地域」「行政」「事業者」の3者が協力してコミュニティバスを導入する手引きを作成しており、その姿勢は素晴らしい。一方、運行計画の作成は地域

が主体で担うこととなっているが、正直に言って素人が作成するのは難しいのではないかと思う。できない場合はどのように対応するか、考えがあれば教えてもらいたい。

事務局：市としても、地域だけで運行計画を作成するのが難しいという実態は把握している。市も専門家ではないため、乗務員さんに依頼して運行ルート案を走行してもらするなど、事業者に専門的な意見を伺いながら運行計画を作成していく方向で検討している。

委員：消費者の会は市民の意見を統括しているように思われがちだが、実際は異なる。各地区で検討していく中で、より多くの意見や要望を把握してもらいたい。

### (3) その他

委員：駐停車車両が、バス乗降時の妨げとなっている。

会長：事務局から、担当課に状況を報告してもらいたい。

委員：八柱駅から総合医療センターに無料の送迎バスが出ているが、コミュニティバス利用者からは矛盾を感じるとの声が挙がっている。交通政策としてどのように対応するつもりか考えを教えてもらいたい。

事務局：病院の送迎バスは行先を限定したものであり、公共交通ではないという位置づけである。そのような意見があった旨は、病院にお伝えしたい。

会長：病院利用者のために病院が運行しているバスであれば、それ以外の利用者が意見することは難しいと思われる。

会長：引きこもりを防止するためにバスを導入してほしい、というのも要望する理由としてあってよいと思う。

中和倉地区は傾斜が多く、自転車では走りにくい。傾斜の多い地区においてかにコミュニティバスを走らせるか、という視点も必要ではなかろうか。

以上をもって会議終了とする。

以上